

栃木のDXを加速する「一般社団法人ITコーディネータ栃木」が9月10日に新設！ 当社顧問・野田正弘氏が代表理事に就任

栃木県内の中小企業のDXとIT人材育成を強力に推進するため、本年9月10日、新たに「一般社団法人ITコーディネータ栃木」が設立されました。そして、この新組織の舵取りを行う初代の代表理事として、アップデート株式会社の顧問である野田正弘氏が就任いたしました。

これまで県内には、経営とITのプロフェッショナルである「ITコーディネータ」を統括・組織化する独自の法人組織が存在していませんでした。今回、待望の新法人として立ち上がったことで、地域企業へのデジタル化支援や、DX時代の経営戦略をワンストップでサポートする体制が本格的に始動することになります。

今後は、新法人と当社がそれぞれの強みを活かして密に連携し、栃木県内におけるITインフラの整備や、次世代のIT人材育成をより一層加速させてまいります。

初代代表理事に就任した野田氏は、「今までになかった地域の受け皿として、企業に寄り添い、ITの力で持続可能な成長を後押ししたい」と力強く抱負を語っています。当社としても、この新法人と共に地域のビジネス革新に深く貢献してまいります。これからの新しい歩みにぜひご期待ください。



UD TOPICS



7月

7月17日(金)、「暑気払いBBQ」を開催！当日は雨でしたがドームテントで網いっぱいのお肉を堪能しました。今回は社員だけでなく27年入社予定の内定者や、社員の子どもたちも参加。和氣代表が子どもたちからの可愛い質問に本気で悩む姿もあり、世代を超えて大盛り上がり！内定者のフレッシュな元気をもらい、当社の強みである「人とのつながり」がさらに深まる温かい一日となりました。



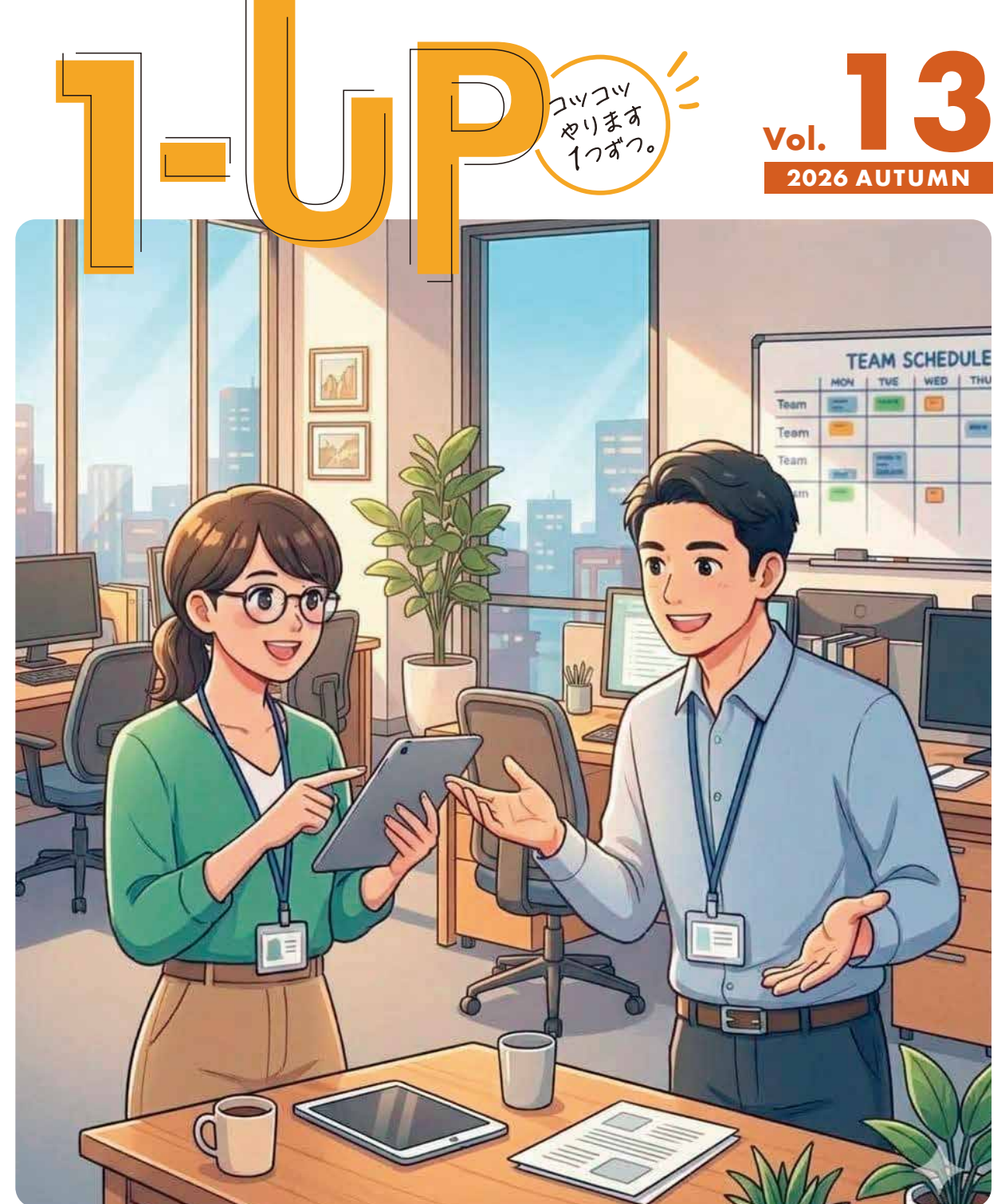
8月

地域貢献への取り組みとして、去年に引き続き今年も「ふるさと宮まつり」と「日光花火大会」への協賛を行いました。この協賛は、私たちが大切にしている「人とのつながり」を地域社会へも広げていくための大切な活動です。地元の伝統あるお祭りと夜空を彩る美しい花火が、地域のみなさまの笑顔と元気につながることを願っています。



9月

3日、10日の2日間にわたり、オープンカンパニーを開催しました。今回は3名の学生さんに参加いただき、スマート社員の働き方を体験していただきました。参加した学生さんからは「実際の会社へ見学にも行ってみたい！」というお声をいただき、大変うれしく思っています。今回の経験が、学生のみなさんにとって将来の選択肢を広げる、少しでもためになる機会になっていれば幸いです！



- FEATURE | AI活用における利用ルールの作り方
- INTERVIEW | 【スマート社員活用事例】クライアントインタビュー
- MEMBER | スマート社員メンバー紹介 第12回「シオン」
- UDコラム／アップデートひろば

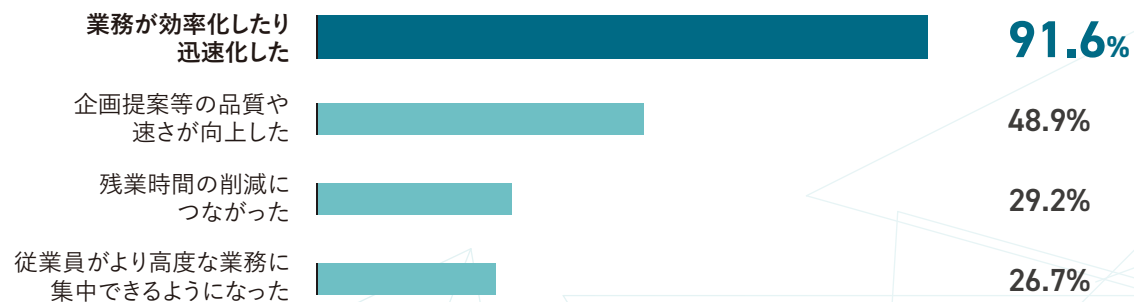


中小企業でもすぐにできる「社内AI活用ルール」の作り方

生成AIの業務活用が急速に広がる一方で、「情報漏洩が心配」「AIの誤情報をそのまま使ってしまうか」という不安の声も少なくありません。

IPAの「DX動向2026」によると、生成AIを導入する企業は前年の22.6%から44.0%へと倍増しており、いまや大企業だけのものではなくなっています。効果を実感した企業の91.6%が「業務の効率化・迅速化」を挙げており、人手不足に悩む中小企業こそ、生成AIは強力な「業務の補助役」になります。不安を理由に活用を止めるのではなく、「安全に使いこなす仕組み」を社内で作ることが重要です。今回は、明日から実践できる簡単なルール作りのポイントを解説します。

AI導入による主な効果 効果を実感した企業における回答割合(複数回答)



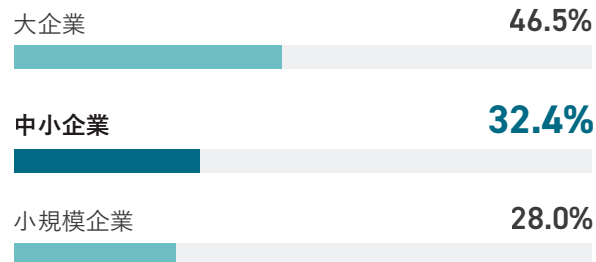
※AIは生成AIを含む。
対象:期待以上・期待どおり・一定の効果を得た企業(n=853)

中小企業のAI活用の現在地

生成AIの活用は、企業規模による差が広がっています

人手不足が深刻な中小企業ほど恩恵を受けやすいはずが、活用は逆に遅れがちです。

企業規模別 生成AIの活用率



出典:帝国データバンク調査(2026年3月)

中小企業のAI導入率

20.4%

導入を検討中の企業を含めると39.0%

導入済み企業が使うAIのうち生成AIが占める割合

82.6%

導入目的の第1位は「業務効率化・作業時間の短縮」(87.0%)

効果を実感した企業の
91.6%
が「業務の効率化・迅速化」
を挙げています

3 RULES

安心してAIを使うための「対策3つの柱」

難しい規定は不要です。まずは次の3つの柱を軸に、A4用紙1枚程度のシンプルなガイドラインを作成しましょう。

01 入力

入れてよい情報を
決めておく

機密・個人情報はNG

氏名、住所、取引金額、契約書、見積書などは原則入力しない。

ツールの限定

データがAIの学習に利用されない設定になっているか確認し、会社が承認したサービス・アカウントのみを使う。有料版や法人向けプランの検討が推奨されます。



02 確認

出力を鵜呑みにせず
人がチェック

ハルシネーション(嘘)に注意

AIはもっともらしい誤情報を出力することがあります。法律・税務・数値は、必ず公的資料などの原典で事実確認を行います。

著作権の確認

社外に公表・商用利用する場合は、既存のロゴやキャラクターに酷似していないか確認。



03 共有

トラブル時の報告ルートを
明確にする

自己判断は厳禁

万が一、誤って個人情報を入力したり、誤データを社外に送ってしまった場合は、直ちに上司またはAI利用責任者へ報告する体制を整えます。



共通の原則

AIは下書きを作る道具。最終判断は、人が行う。

4 STEPS

実際にルールを作る「4ステップ」

日常業務の中から、まずは小さく試して改善していくのが現実的です。

STEP1

利用する業務を
3つに絞る

メール作成、議事録、アイデア出しなど、低リスクで効果が見えやすいものから開始。

STEP2

入力情報を
3段階に分ける

「入力可」「匿名化すれば可」「入力禁止」を明示。

STEP3

許可ツールと
相談先を決める

利用規約を確認した「社内OKツール」を指定し、確認者とトラブル時の報告先を配置。

STEP4

1か月試して
見直す

現場の使いやすさや新たなリスクに応じて、責任者がルールをブラッシュアップ。



まとめ

生成AIのリスクをゼロにすることはできませんが、基本的なルールと確認の仕組みがあればリスクは大幅に低減できます。「小さくルールを決め、試しながら改善する」姿勢で、業務効率化の第一歩を踏み出しましょう!

INTERVIEW

クライアントインタビュー

UDのスマート社員の活用方法や、『スマート社員』について思っていることについてお聞きしました。
※『スマート社員』とは、アップデートの社員がコーポレートITサービスエンジニアとしてお客様企業の内部で社員として業務を行い、課題の発見から解決策の提案、実施までをITを活用してサポートするサービスです。



INTERVIEW

Interviewee



栃木トヨタ自動車 株式会社
営業本部 書類管理グループ
笠倉義広様(写真:中央)

栃木県内に約30店舗を構え、トヨタ車・レクサス車の販売、メンテナンス等を行う自動車販売会社です。
2026年には創立80周年の節目を迎えます。「とちぎの未来へ、あなたとともに。」をスローガンに、地元・栃木の皆さまとのつながりを大切に、本業のみならず、地域振興や社会課題の解決、次世代育成等、地域に根差したさまざまな活動を行っています。

UDに相談する前に抱えていた課題や困っていたことを教えてください。

業務効率化を目的とした新規部署を立ち上げました。社内のデータベースからお客様ごとに必要な情報のみを抜き出し、一人ひとりに合わせた記入見本を作成・ご案内することで、書類作成に係る負担を軽減することを目指していますが、記入見本をつくるためのツールを自社で作成することは困難でした。そのため、理想とする運用の実現に向けて暗中模索の状況にありました。

スマート社員を活用した感想

スマート社員の皆さまにお越しいただいてから、事前に思っていた運用が少しずつツールとして実装されていくのを実感することができました。現在は、完成したツールを活用した運用を開始していますが、業務はかなり効率化されています。今後、運用を重ねながら、より良いツールへブラッシュアップしていきたいです。

今後期待すること

今後とも、IT技術の提供にとどまらない多角的なアドバイスやご提案をいただければ幸いです。これまで以上に信頼関係を深め、より良い成果を共に作っていくことができれば嬉しく思います。

提案で良かった点・印象に残っているエピソード

ITに関する知識や技術力をお持ちなのはもちろんのこと、自動車業界特有の書類を深く理解された上で、常にクライアント目線でアドバイスをいただき有難かったです。特に印象に残っているのは、単に「作成した書類をお客様にお送りする」までの仕組みづくりだけでなく、お客様から返送されてきた後の管理方法についても、これまでのご経験や他事例を踏まえて貴重なアドバイスをいただいたことです。あらためて業務フローを見直すきっかけとなり、現在の運用にも大いに活かされています。

担当社員の印象

担当していただいた3名の方がそれぞれの得意分野や強みを存分に活かしながら、見事な連携で業務を進めてくださったのが印象的です。実務面でのアドバイスを数多くいただいただけでなく、常に私たちと同じ目線に立ち、課題が発生すると「何が真因なのか」を一緒に考えてくださるなど、私たちに寄り添って支援をしてくださることが非常に心強かったです。

いつも提案に真剣に向き合っていたいただき、ありがとうございます。
書類管理グループ3人の皆様の雰囲気がとても温かく、私たちも本当に働きやすいです。これからも多角的なアドバイスで皆様をサポートしていきます。



ムクゲ



シオン



すすき

インタビューにご協力いただき、誠にありがとうございました！

スマート社員メンバー紹介

第12回 UDネーム

シオン

TYPE	ITディレクター
要求熟練度	Lv2
趣味	知らない土地を散策すること
座右の銘	百聞は一見に如かず
UDネームの由来	花言葉の「遠くの人を想う」に、入社当時地元を恋しく思っていた自分の姿を重ねたのがきっかけです。この花言葉のように、顔を合わせているときでなくとも「何か困ったことがあった時にバツと思いついてもらえる存在」になれたらと思っています。

smart member

Q. 現在の仕事内容について

A. 多様な業界のお客様先で、業務の引き継ぎや効率化のサポートを行っています。特にデータベースから必要な情報を抽出・成型する業務が多く、自分の得意分野になりつつあると感じています。他にもシステム移行を見据えたDB調査やマニュアル作成を行っていますが、お客様と直接対話しながら進めるからこそ、各業界のリアルな苦労や深みまで知れることがこの仕事の大きなやりがいです。

Q. 仕事で心掛けていること

A. 業務改善やマニュアル化にあたっては、自分で実際に体験して課題を洗い出すことを大切にしています。長年培われた「慣れ」はベテランの変化への抵抗感を生む一方で、新人には過度な忍耐を強いる原因となりがちです。人に依存する努力ではなく、次の人が安心して引き継げる環境を作るために、現場の声にしっかり耳を傾けながら改善を進めていけるよう奮闘中です。

Q. 今後やっていきたいことはなんですか？

A. 「ITのハードルを下げるお手伝いをしたい」という初心を胸に、まずは知識とスキルを確実に積み上げていきます。業務の現場では、相手の立場に立ってメリット・デメリットの双方を分かりやすく伝え、一過性ではない「長く続く運用」の定着を目指します。将来的には、ただシステムを整えるだけでなく、マニュアルの標準化やノウハウの共有を通じて「社内外問わず、誰でも迷わずITを使いこなせる環境」を広げていくお手伝いをしていきます。

お客様にひとこと

現場の「困った」に寄り添い、メリット・デメリットを踏まえた無理のない運用と一緒に考えていきます。ITへのハードルを下げ、現場で定着するまで支え続けるのが私の役割です。企業の「これから」をともに創る一番身近な伴走者として、気軽にお声がけください！

プライベートの過ごし方

休日は「知らない土地を散策すること」を兼ねて、日帰り旅を楽しんでいます。同期とご飯に行ったり、地元の友人都内で遊んだり、九州から宇都宮へ引っ越して3年目、関東圏のアクセスの良さを満喫中です！また、一人暮らしを機に始めた料理も上達し、休日に食べたいものをまとめて作りするのが良い息抜きになっています。



my hobby

◀好きなアーティストのライブのついでに名古屋城観光してきました！



◀長崎の中華街しか知らなくて、横浜中華街の大きさにびっくりしたので神戸にも行ってみました！より中華感が増している感じがしていて楽しかったです。



こちらのQRコードから、すぐにご相談いただけます！
ご連絡お待ちしております！！

「変われる組織」より 「自分を知る組織」が生き残る

当コラムでは、生産性向上に直結する具体的な手法から、DX(デジタルトランスフォーメーション)を推進するためのステップまで、実用的な知見を幅広く紹介。現場担当者からマネジメント層まで、それぞれの立場で直面する課題の解決に役立つノウハウを提供します。

「変われる組織」より、「自分を知る組織」が生き残る

変化の激しい時代だから、組織も変わらなければならない。これは、いまや経営の常識です。しかし私は、変化でできること以上に重要なのは、自分たちは何者なのかを理解していることではないかと考えています。

環境が大きく変化すると、新しい技術、新しい市場、新しいビジネスモデルが次々と現れます。生成AIへの対応もその一つでしょう。そこで多くの組織は、何か新しいことをしなければと焦ります。しかし、変化すること自体が目的になれば、流行を追い続けるだけになりかねません。

むしろ、生き残る組織には、自分たちの強みだけでなく、弱み、価値観、蓄積してきた知識、顧客から評価されている理由、そして何を変えてはいけないのかまで理解する力が必要です。いわば、「**組織としての自己理解**」です。

これは、昔からのやり方を守るという意味ではありません。**自己理解があるからこそ、ここは守る、ここは捨てる、ここは大胆に変える**という判断ができます。逆に、自分たちが何者なのか曖昧な組織ほど、環境変化のたびに判断軸が揺らぎます。

☑ 守る



☑ 捨てる



☑ 大胆に変える



そして、社会から必要とされ続ける組織にも、この自己理解があるように思います。何を売っている会社かだけでなく、自分たちは社会の中で、誰の、どのような問題を解決するために存在しているのかを理解している。だからこそ、商品や事業の形が変わっても、その組織らしい価値を提供し続けることができます。

変化の時代に必要なのは、何でも変えられる組織ではありません。変えるべきものと、変えてはいけないものを自分たちで見極められる組織です。生き残るために外を見ることは重要です。しかし、外部環境が不確実になればなるほど、一度、自分たちの内側を見る必要があります。

「私たちは、そもそも何者なのか。」

この問いに答えられることこそ、AI時代の組織にとって最も重要な能力の一つなのではないでしょうか。

土屋翔

宇都宮大学データサイエンス経営学部 准教授。
専門は、組織論。自身で起業し理論と実践の架橋を模索中。



UD社員発信！

アップデートひろば

UPDATE COMMUNITY

「アップデートひろば」は、アップデート株式会社の“ヒト”に焦点をあて、社員の様々な情報を発信するコーナーです！
アップデートの社風や、社内にどんなメンバーがいるのか多くの方に知ってもらえれば嬉しいです！

自信満々で挑む！デカ盛り給食チャレンジ



今回のアップデートひろばでは、バオバブの発案で「デカ盛り給食チャレンジ」に挑戦！何か面白いイベントはないかと探していたところ、この企画を発見。大食い企画は全員初挑戦ながら、「これはやるしかない！」と参加を決定。個性豊かな3人で挑むことになりました。

／ TEAM ／

デカ盛り給食チャレンジャーズ

ばなな

トチノキ

バオバブ

SNS運用のスペシャリスト。取れ高あるところにはなかり。「俺一人に任せてもいいですよ！」

生きるために食べ、食べるために生きる男。今回の企画者。「余裕です。完食後にデザートまで頼んでやります。」

UD新進気鋭のメンバー。企画決定時、たまたま隣にいたことで巻き込まれることに。「食べられない可能性は0%ですね！」



——この時点では、全員自信満々でした。

いざ、45分間の戦いへ！

序盤は「おいしい！」「懐かしい！」と順調なスタート。しかし、序盤から手を付けた揚げパンが想像以上にヘビー。そこで途中から役割分担を開始します。
バオバブ → 揚げ物担当 ばなな → 炭水化物(米)担当 トチノキ → 若さ担当
それぞれの持ち味を活かし、完食を目指して食べ進めます。中盤には、ご飯の下からお楽しみ食材のチャーシューが登場。本来ならうれしいはずのお楽しみも、この状況では一転して絶望に。



徐々に失われていく余裕…



米との戦いが続き、いつしか「炭水化物……」とうわごとのようにつぶやく状態に。開始前のばなな「俺一人に任せてもいいですよ！」という勢いはどこへやら。



「トマトを食べるタイミングは重要だぞ」揚げ物と戦い続ける中、トマトのありがたさを再認識。



苦しさが増す中、「レモンスカッシュ飲みたい……」と、誰に言うでもなくボソッと一言。トチノキ もはや給食とは関係のないものを求め始めます。



そして残り5分。開始前の余裕はすっかり消え、最後の力を振り絞って食べ進めます

／ 結果発表 ／

惜しくも完食ならず！

3.8キロ

4キロ完食を目指しましたが、あと一步の3.8キロで断念…！
本当に悔しいですが、お腹がはち切れそうなのでここでギブアップです。
45分間の激闘の末、残ったのはソフト麺1人前にも満たないほど。
お店の方によると、これまで完食者はおらず、今回の記録は歴代でも2番目ほどとのこと。
完食こそ逃したものの、大健闘となりました！
そして、失敗時のルールに従い……3人仲良く、バケツを持って廊下へ。

最後に一言

惜しくも完食とはなりませんでした。普段の仕事とは違う形で、メンバー同士一つの目標に全力で挑む時間となりました。仕事も遊びも、やるからには全力で。これからはUDらしく、楽しみながらさまざまなことにチャレンジしていきます！ただし、デカ盛り給食への再挑戦は……しばらく考えさせてください。



ばなな
「イヤーきつかった……」

バオバブ
グロッキーのためコメント不能。

トチノキ
「くっそー！」
なぜかトチノキだけは、最後まで笑顔でした。